

このことについて、下記のとおり「麦作情報（第3号）」について送付しますので、業務の参考にして
ください。

令和8年産麦作情報（第3号）

1. 気象の概要

- ◆平均気温…1月の4半旬以外は平年並み～平年よりやや冷え込んだ。2月1半旬～2半旬は平年並みからやや低く推移した。
- ◆降水量は…1月の降水量は合計8mmであり、平年比14%となった。2月10日～11日かけて計9.0mmの降雨があったが、平年よりも少なく推移している。
- ◆日照時間…1月の日照時間は、平年より多照で推移した（平年比141%）。2月1半旬～2半旬までは少なく推移している。

2. 管内麦類の生育状況

場所	品種名	播種日	苗立ち数 (本/m ²)	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉数 (L)	備考
鍋島	シロガネコムギ	11/19 (11/24)	188 (124)	17.4 (14.4)	663 (435)	5.7 (4.9)	・播種期は平年並み
北川副	さちかおり	11/21 (11/24)	137 (160)	15.0 (14.1)	775 (1026)	6.3 (5.9)	・播種期は平年並み
川副	はるか二条	11/25 (12/10)	134 (145)	16.2 (9.5)	878 (188)	6.1 (2.5)	・播種期は平年並み

注 1) () 記載は昨年度の生育状況。圃場、播種日など条件が異なるため、あくまでも参考程度。

【概況】

- ・11月中旬に播種された小麦は現在、第6葉～第8葉を迎えており、分けつの抽出も旺盛となっている。（写真4～7）まもなく茎立ち期を迎える見込みである。
- ・11月下旬～12月上旬に播種された大麦は、現在、第3葉～第6葉を迎えており（写真8,9）、分けつの抽出も旺盛であるが、播種が遅れた圃場では、冷え込みと降雨が少なく推移した影響により、生育が遅れている。
- ・カモによる食害が各地で散見され、特に大きな河川やクリーク付近の圃場で被害が見られている。

◎農試作況試験における麦類の生育(2月10日調査)

品種	播種期 (月/日)	年次	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉齢 (L)	葉色 (SPAD)	概況4) (平年値または平均値と比較して)
1) シロガネコムギ	11/20	本年	15.9	731	5.6	46.1	[気象] 1/20~2/9 まで ◆平均気温…1.0°C低い 1月4半旬:9.9°C(平年差+4.2°C) 1月5半旬:3.4°C(平年差-2.1°C) 寒暖の差が大きい ◆日照時間…長い(平年比 122%) ◆降水量……かなり少ない(平年比 14%) [生育] ◆草丈 全品種、全作期で低い。 ◆茎数 11/20 播種「シロガネコムギ」、12/1 播種「はるか二条」はやや少なく、12/1 播種「サチホゴールド」は少ない。12/10 播種は全品種とも多い。 ◆葉齢 「シロガネコムギ」は 11/20 播種で少なく、12/10 播種でやや多い。「サチホゴールド」は両作期ともやや多い。「はるか二条」は 12/1 播種で平年並み、12/10 播種でやや少ない。 ◆葉色 「シロガネコムギ」は 11/20 播種で淡く、12/10 播種は平年並み。「サチホゴールド」は両作期ともやや濃い。「はるか二条」は 12/1 播種でやや淡く、12/10 播種は平年並み。
		平年	21.3	758	6.2	49.2	
		平年差(比)	75	96	-0.6	-3.1	
	12/10	本年	9.0	543	4.4	48.9	
		平年	14.3	451	4.3	48.9	
		平年差(比)	63	120	+0.1	±0	
2) サチホゴールド	12/1	本年	11.5	682	5.3	45.6	
		5ヶ年平均	14.1	783	5.1	44.1	
		平年比(差)	82	87	+0.2	+1.5	
	12/10	本年	10.0	637	4.5	46.0	
		平年	13.0	597	4.4	45.3	
		平年比(差)	77	107	+0.1	+0.7	
3) はるか二条	12/1	本年	10.6	717	4.8	48.1	
		5ヶ年平均	13.2	745	4.8	49.7	
		平年比(差)	80	96	±0	-1.6	
	12/10	本年	9.8	615	4.2	49.4	
		平年	13.4	574	4.3	49.2	
		平年比(差)	73	107	-0.1	+0.2	
留意点	◆ 踏圧は、3 葉期以降土壌が乾いた状態で実施する。ただし、茎立期(節間長 2cm・草丈約 25cm)以降は幼穂を傷めることがあるので控える。 ◆ 5 葉期以降、雑草防除と無効分けつの抑制、排水対策のために土入れを行う。土入れは踏圧後 7 日以上あける。 ◆ 雑草がみられる圃場では、早めに茎葉処理剤を施用する。なお、薬害の発生を防ぐため踏圧前後の除草剤散布は 7 日程度間隔をあけること。						

注意事項

- 1)「シロガネコムギ」: 苗立数は 11/20 播種が 120 本/m²、12/10 播種が 150 本/m²。施肥量(基肥-追肥 I - 追肥 II)は窒素成分(kg/10a)で 5.5-4.5-4.0。平年値は過去 7 年以内、収量が最高年と最低年の値を除いた 5 ヶ年分の平均。
- 2)「サチホゴールド」: 苗立数は 150 本/m²。施肥量は 6.0-4.0-2.0。平年値は 12/1 播種が試験を開始した R3 年産から 5 ヶ年分の平均、12/10 播種は過去 7 年以内、収量が最高年と最低年の値を除いた 5 ヶ年分の平均。
- 3)「はるか二条」: 苗立数は 150 本/m²。施肥量は 6.0-4.0-4.0。平年値は 12/1 播種が試験を開始した R3 年産から 5 ヶ年分の平均、12/10 播種は過去 7 年以内、収量が最高年と最低年の値を除いた 5 ヶ年分の平均。

3. 今後の管理

1) 施肥

○穂肥

- 穂肥は、早く施用しすぎると茎葉が繁茂し、後半の肥切れにつながる事及び、1 月は降雨が少なく、土壌中に肥料が残存していると推測されるため、施用時期は極端に早めないほうが好ましい。
 - ただし、11 月中旬～下旬播種の小麦は、例年に比べ葉齢がやや進んでおり、幼穂形成も早い傾向のため、2 月中下旬頃から施用する。
- ※茎立期(図 1 の時期)を迎えた圃場では、麦踏みを行いながらの施肥は避け、動力散粒機やブロードキャスター等で散布する。
- 肥効を高めるため、穂肥後に土入れを行うと効果的である。

○穂揃期追肥（実肥）

タンパクの向上に直結する穂揃期追肥は必ず施用する。特に、パン用小麦は必ず施用する。

葉色の褪め方にかかわらず必ず施用

品 種	窒素量 kg/10a	実肥の施用量（/10a）
パン用 はる風ふわり	5	硫安 25kg または 尿素 12.5kg
パン用 さちかおり	7	硫安 30kg または 尿素 15kg
めん用 チクゴイズミ	3	硫安 15kg または 尿素 7.5kg

葉色が薄い場合（出穂期前頃の SPAD 値 40 以下）施用

品 種	窒素量 kg/10a	実肥の施用量（/10a）
シロガネコムギ	2	硫安 10kg または 尿素 5kg
大麦	2	硫安 10kg または 尿素 5kg

★穂揃期追肥は、出穂期の 3 日後が効果的。それ以降に施用する場合は増量が必要となる。

＜液肥利用の留意点＞

- 肥料を溶かす際は、直接タンクに入れると溶けない場合があるため、事前にお湯等で溶かし、タンクに入れると濃度ムラがなくなる。
※硫安による液肥施用は難しいため、液肥利用の際は尿素を用いる。
- 乗用管理機での施用の場合、赤かび病防除との同時施用も可能。ただし施用時期が遅くなるため、3～4割追加した量が必要になる。
- 液肥施用後、芒や葉先などに肥料焼けがみられるが、収量や品質への影響は小さい。

○ビール大麦 「サチホゴールド」

【タンパク質含有率値の目標：10～11%】

2月の降水量と葉色により、穂肥量を決定する。

次表を参考に施肥する。時期は、3月上旬までとする。

（窒素成分 kg/10a）

		2月の降水量 (mm)		
		40	80	120
3月上旬の葉色 (SPAD)	38	1.8	—	—
	40	1.2	—	—
	42	0.6	4.2	—
	44	—	3.6	—
	46	—	3.0	—
	48	—	2.4	—
	50	—	1.8	—
	52	—	1.2	—
	54	—	0.6	4.1
56	—	—	3.5	

茎立期（節間長が 20mm 以上）
この時期になると、幼穂を傷つける
ため麦踏みは避ける

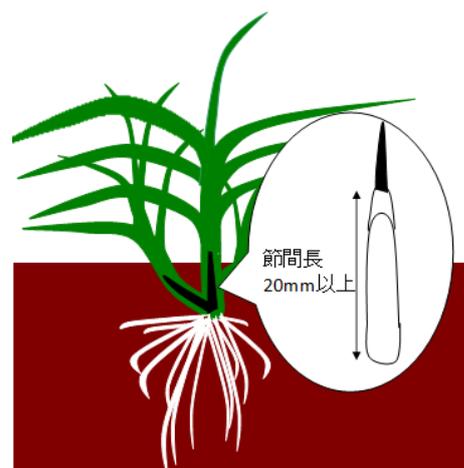


図1.茎立の模式図

（参考）サチホゴールドの穂肥診断基準（農試）

2) 麦踏み（3葉期以降）

- 麦は畑作物であり、水分も必要であるが、過剰であれば生育阻害の要因となり、麦踏み・土入れ等、肥培管理を徹底するためにも、圃場が乾燥していることが求められる。

- ただし、今年産麦の場合、降雨が極端に少なく推移している影響から、生育遅延や黄化している場合は、成長阻害を助長する可能性が高いため、麦踏みは控える。
- 土壌水分が高い時に麦踏みを行うと土が締まり、湿害を助長し、排水性が悪くなるので、圃場条件が良いときに3～4回程度実施する。
- 茎立期を迎えた圃場では、茎折れによる穂数の減少や株元のなびきで、倒伏に対する抵抗力が弱まるため実施しない。
- 麦踏みの最終時期は節間伸長開始期～茎立期前までである。
(図1参照：節間長2cm・草丈25cm程度)

【麦踏みの効果】

- ① 耐寒性向上 ② 根量増加 ③ 短稈多分げつ型への誘導 ④ 早立ち防止で凍霜害回避

3) 土入れ(5葉期以降)

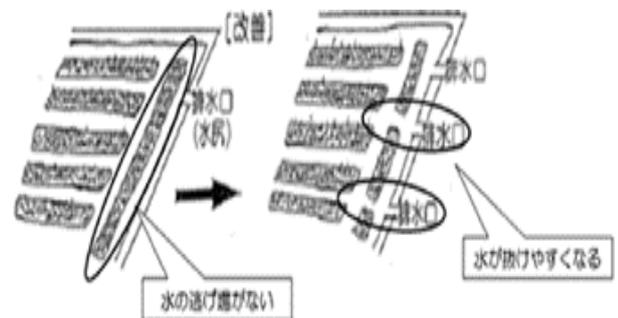
- 土壌水分が高いときに土入れを行うと、土塊が大きく麦が埋まり土から出てこなくなる。
- 雑草防除と排水対策もかねて、圃場の条件をみながら計画的に土入れを実施する。
- 分げつ初期に土入れ量が多いと、分げつを抑制することがあるため、生育初期は少なめに、生育が進むにつれて土入れの量を増していく。
- 播種量が多く苗立ち数が多い圃場では、例年より土入れを1～2回増やして過剰分げつを抑制する。
※過剰分げつは、細莖化を招き倒伏に弱くなる。

【土入れの効果】

- ① 防寒 ② 保肥力増大 ③ 倒伏防止 ④ 無効分げつ制御 ⑤ 雑草防除 ⑥ 排水促進

4) 排水対策

- 排水対策は、分げつの確保や登熟向上・収量向上・品質向上に重要である。
- 土入れに加え、まくら地の排水溝を整備し、圃場内の水を早く排水できるように努める。
→特に、トラクターカルチで土入れを実施する場合には、排水不良(うね溝の停滞水が多くなる)となりやすいので、うね溝と排水口とをつなぐように徹底する。(写真9)
- 近年は温暖化の影響で出穂期前後から大雨が降ることが多い。水が溜まったら排水溝に逃がす作業を必ず実施する。



5) 病虫害防除

(1) オオムギ網斑病

- 圃場・株ごとの差が大きくなっているため、各圃場の発生状況を確認が必要である。
- 防除適期は出穂期～穂揃期で、この時期の防除効果が最も高い。しかし、早い時期から発生株が散見され、病斑が上位葉に進展している場合は、直ちに防除を行うとともに、出穂期～穂揃期にも防除を実施する。



写真1.オオムギ網斑病

網斑病の防除適期

麦種	全茎数の 40～50%が出穂した日	出穂期	穂揃期	全茎数の 80%が出穂した日 (出穂期から概ね 2～3 日後)					
		0	+5 日	+10 日	+15 日	+20 日	+25 日		
大麦	←—————→								

注1) 出穂期とは全茎数の 40～50%が出穂、穂揃期とは全茎数の 80%が出穂した日。

注2) 矢印は防除適期を示し、薬剤については次表を参照とする。

注3) 出穂期より早い時期から発生株が散見され、病斑が上位葉に進展している場合は、この時期にも防除を実施する。

※ チルト乳剤は 1 回しか使用できないので注意する。

農薬名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量 (/10a)	使用時期	総使用回数	使用方法
チルト乳剤 25	網斑病	1000 倍	60～150L	収穫 21 日前まで	1 回	散布

(2) コムギ黄斑病

- ・降雨などの多湿条件と 10℃以上の気温条件が、一次伝染および二次伝染を助長する。
- ・前作が大豆の圃場では、水稻の圃場より顕著に発生が多くなる傾向にある。また、発病には品種間差異があり、シロガネコムギは耐病性があるが、チクゴイズミ、ミナミノカオリ、はる風ふわり、さちかおりで発病が確認される。
- ・本病が上位葉まで進展すると、収量・品質に影響を及ぼす恐れがあるため、出穂期までに薬剤防除を徹底する。
(登録薬剤：チルト乳剤、ワークアップフロアブルなど)



写真2.コムギ黄斑病

6) 鳥獣害対策

○カモによる食害

- ・川沿い(嘉瀬川、筑後川、クリーク等)の麦でカモによる食害が毎年確認され、本年も被害が確認されている。(写真3)
- ・被害が小さい場合、補償作用により減収も限定的だが、時期が遅く被害が大きい場合、減収につながる恐れがある。



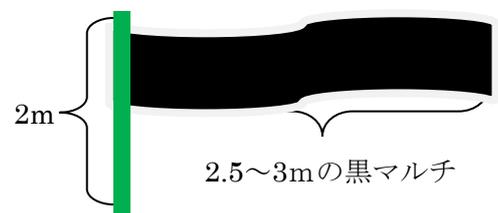
写真3. カモの食害痕

(症状)

- ・麦の地際部まで草刈り機で払ったように葉が切れている。
- ・周辺に鳥の糞が落ちている。

(対策)

- ・カモ害の対策として、「のぼり」や「テグス」などの方法がある。「のぼり」は、マルチ支柱の高さが短かかったり、10aあたりの「のぼり」の本数が少ないと効果が低い。
- ・水路寄りの部分を中心に設置すると効果的である。
- ・2.5～3mの黒色のマルチを 2mの支柱につるした「のぼり」を 10a あたり 5 本均等に設置する。
(費用は、「のぼり」1 本あたり約 420 円)



7) 雑草対策

- ・同一除草剤の連用により除草剤抵抗性雑草の発生が報告されている。
- ・これまでに同一の除草剤を連用した圃場など、除草剤散布後も雑草の取りこぼしが目立った圃場では使用する除草剤の変更を検討する。
- ・生育期除草剤は、草種や使用時期によって効果に差があるため、優先している雑草の種類に応じ、処理時期を逸しないよう対処する。(下表参照)

【注意】

- ・麦踏前後の除草剤散布は薬害を助長するため避ける。
- ・除草剤散布後、すぐに土入れを行うと、有効成分の根部吸収が妨げられるので控える。

▼除草剤使用基準

生育期処理						
バサグラン 液剤	一年生雑草 (イネ科を除く)	100~ 200ml	70~ 100L	雑草 3~6 葉期 小麦: 収穫 45 日前まで 大麦: 収穫 90 日前まで	1 回 以内	・ミチヤギ、カスノコグサ、カスノコグサ等への効果は劣る
エコパート フロアブル ※1	1年生広葉雑草 ※イネ科雑草には 効果がない	50~ 100ml	100L	節間伸長開始期まで (広葉2~4葉期) (ヤエムグラ2~6節期) ただし収穫 45 日前まで	2 回 以内	・薬害が出やすい ・ヤエムグラ優先 圃場で使用
ハーモニー 75DF	イネ科雑草 ・スズメノテッポウ ・カスノコグサ 広葉雑草 ・ミチヤナギ ・タデ類 ・キツネノボタン ・ヤエムグラ ・ナズナ ・ハコベ	5~ 10g	100L	は種後~節間伸長前 (スズメノテッポウ5葉期まで) (カスノコグサ1~3葉期まで) ※小麦のみ は種後~穂ばらみ期 まで 但し収穫 45 日前まで	1 回 以内	・カスノコグサには10g/10aとし、土壌処理剤との体系処理で使用 ・周辺作物(特にタマネギ)への飛散には十分留意する ・ヤエムグラ、カスノコグサへの効果は劣る

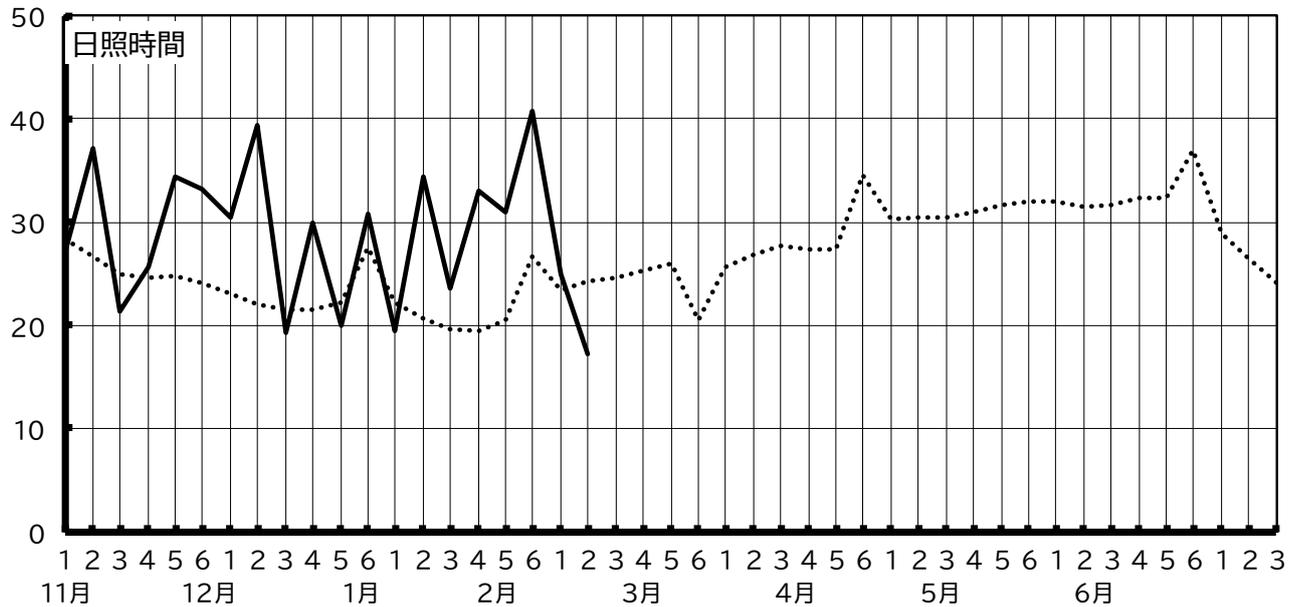
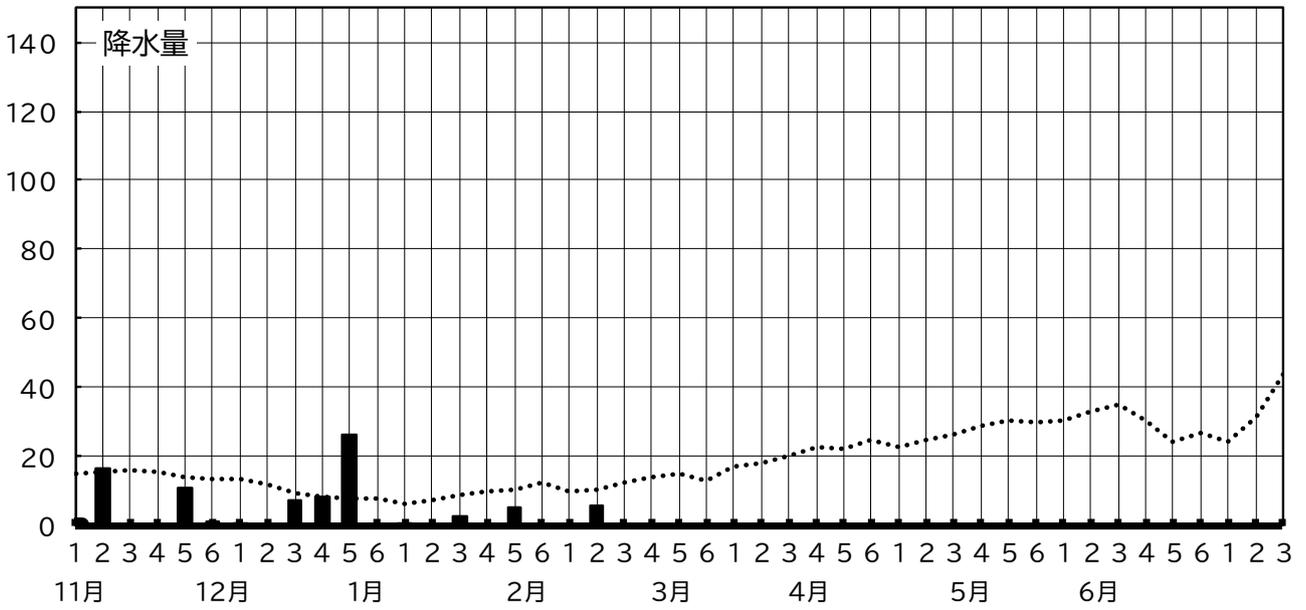
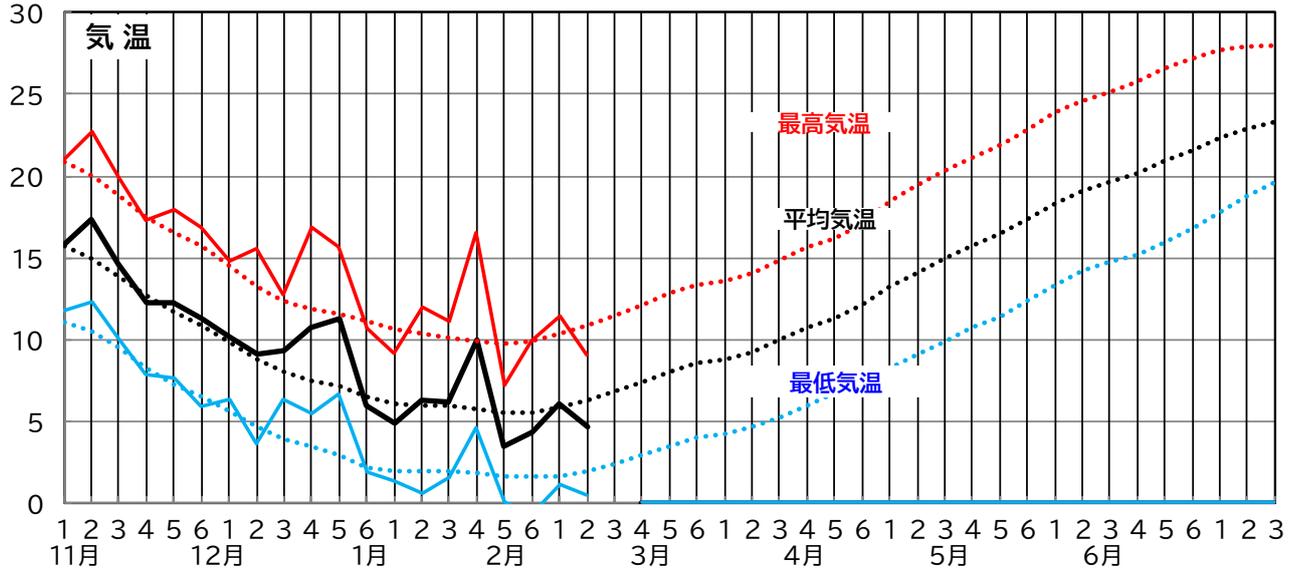
※1 以下の場合、薬害が生じることがあるので留意する。

- ・重複散布は避け、麦が生育不良の場合は使用を避ける。

令和8年産麦類生育期間気象グラフ

アメダス観測値(佐賀)

佐城農業振興センター



※グラフ中の点線は平年値



写真4.5 R8年産シロガネコムギ情報田の状況

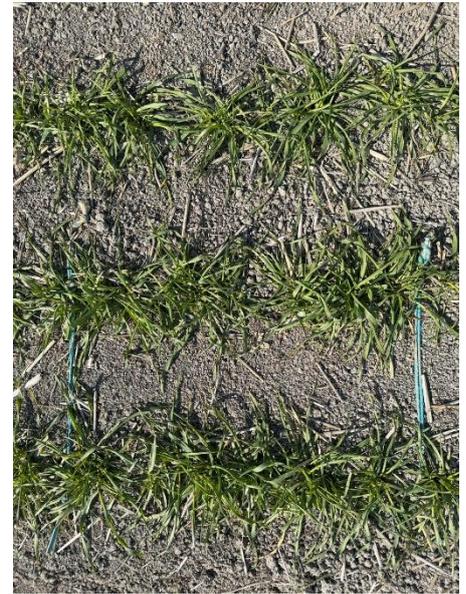


写真6.7 R8年産さちかおり情報田の状況

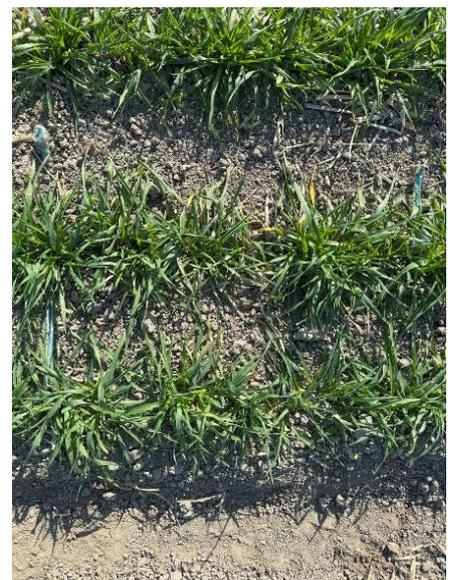


写真8.9 はるか二条情報田の状況